

「造血器腫瘍患者におけるアムホテリシン B リポソーム製剤と グリコペプチド系抗生剤の併用による腎機能障害の検討」

患者さまへ

当院では、造血器腫瘍患者において、バンコマイシンまたはテイコプラニンというグリコペプチド系抗生剤とアムホテリシンBリポソーム製剤という抗真菌剤を併用した際の腎臓への障害を明らかにするための研究を行っております。平成20年1月1日以降に造血器腫瘍と診断され、治療中にアムホテリシンBリポソーム製剤（アムビソーム）を投与された患者さんを対象として、①性別、②年齢、③全身状態、④血液検査の結果、⑤病気の広がり、⑥症状、⑦合併症などを調査しております。お名前が外部に漏れることはありませんので、登録された情報によって患者さんが特定されることはありません。しかし、患者さんが望まれない場合には登録致しませんので、その場合には血液内科の外来主治医または病棟主治医にその旨をお伝えくださるようお願い致します。

尚、本研究は、大阪、和歌山の病院を中心に形成された阪和血液病カンファレンスへの参加施設のうち、以下の 8 施設との共同研究として、行っています。尚、参加施設は、今後増える可能性があります。

大阪市立総合医療センター、高槻赤十字病院、社会保険紀南病院、日生病院、パナソニック健康保険組合・松下記念病院、府中病院、りんくう総合病院、和歌山県立医科大学附属病院